

文部科学省特別経費「大学の特性を活かした多様な学術研究機能の充実」

(プロジェクト分)

附置研究所間アライアンスによるナノとマクロをつなぐ

物質・デバイス・システム創製戦略プロジェクト

(ナノマクロ物質・デバイス・システム創製アライアンス)

平成25年度成果報告会 開催報告

「ナノマクロ物質・デバイス・システム創製アライアンス」平成25年度成果報告会を2014年5月30日(金)に大阪大学・大会館で開催した。北海道大学、東北大学、東京工業大学、大阪大学、九州大学のアライアンスメンバーを中心に202名が参加した。文部科学省研究振興局学術機関課・瀬戸信太郎学術研究調整官に加え、産業界からの有識者としてI&C・ケムテック株式会社・谷口正俊代表取締役、武田薬品工業株式会社・残華淳彦リサーチマネジャー、三菱電機・先端技術総合研究所・長江偉首席研究員、同・小川新平首席研究員、同・馬淵貴裕研究員、同・時岡秀忠グループマネージャ、株式会社日本経済新聞社編集局科学技術部・黒川卓氏をお招きして、本アライアンス事業に活動についてご意見を賜った。

成果報告会は10時より、当報告会の当番研究所である大阪大学・産業科学研究所・八木康史所長による開会挨拶に始まり、文部科学省・瀬戸信太郎氏から来賓の挨拶を賜った。ついで、平成25年度アライアンス運営委員会副委員長の大阪大学産業科学研究所・田中秀和教授によるアライアンス事業の概要と平成25年度活動の全体説明がなされた。その後、次世代エレクトロニクスグループ(G1)、新エネルギー材料・デバイスグループ(G2)、医療材料・デバイス・システムグループ(G3)、環境調和材料・デバイスグループ(G4)から、グループリーダーによる各グループの活動報告及び代表メンバーによる共同研究の成果報告がなされた。昼食時には、アライアンスメンバーにより、G1から25件、G2から31件、G3から33件、G4から27件、合計116件のポスター発表がなされ、フロアでの活発な討論が行われた。また、並列して文部科学省との及び産業界からの有識者との意見交換会も開催され、アライアンス事業全般に関わる有益なご助言をいただき、たいへん有意義な意見交換が交わされた。

東北大学・多元物質科学研究所・河村純一所長の閉会挨拶で報告会は終了し、その後、同会場内で懇親会が開催された。東京工業大学・資源化学研究所・穂田宗隆所長の開会挨拶、北海道大学・電子科学研究所・西井準治所長の乾杯により始まり、産業界有識者2名の方から講評を含めたご挨拶をいただいた。懇親会の最後には、次回の成果報告会の当番研究所である九州大学・先導物質化学研究所・高原淳所長の挨拶をもって閉会した。

今回のアライアンス報告会では、共同研究実績の上がっている研究グループを中心として成果報告がなされ、着実な進展を印象づける会となった。また、いくつかのグローバル展開活動も紹介され、共同研究の輪がさらに広がってきている現況が共有された。



平成 25 年度成果報告書



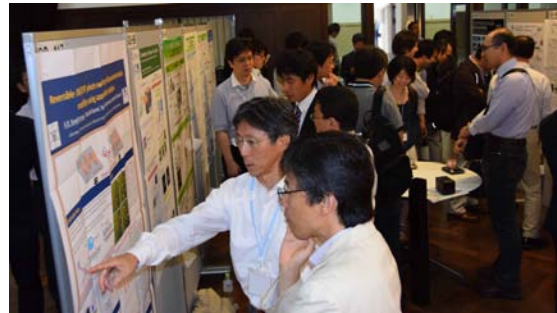
平成25年度成果報告会
ポスター



大阪大学・大学会館



来賓挨拶
文部科学省学術機関課
瀬戸信太郎学術研究調整官



ポスター発表会場



集合写真